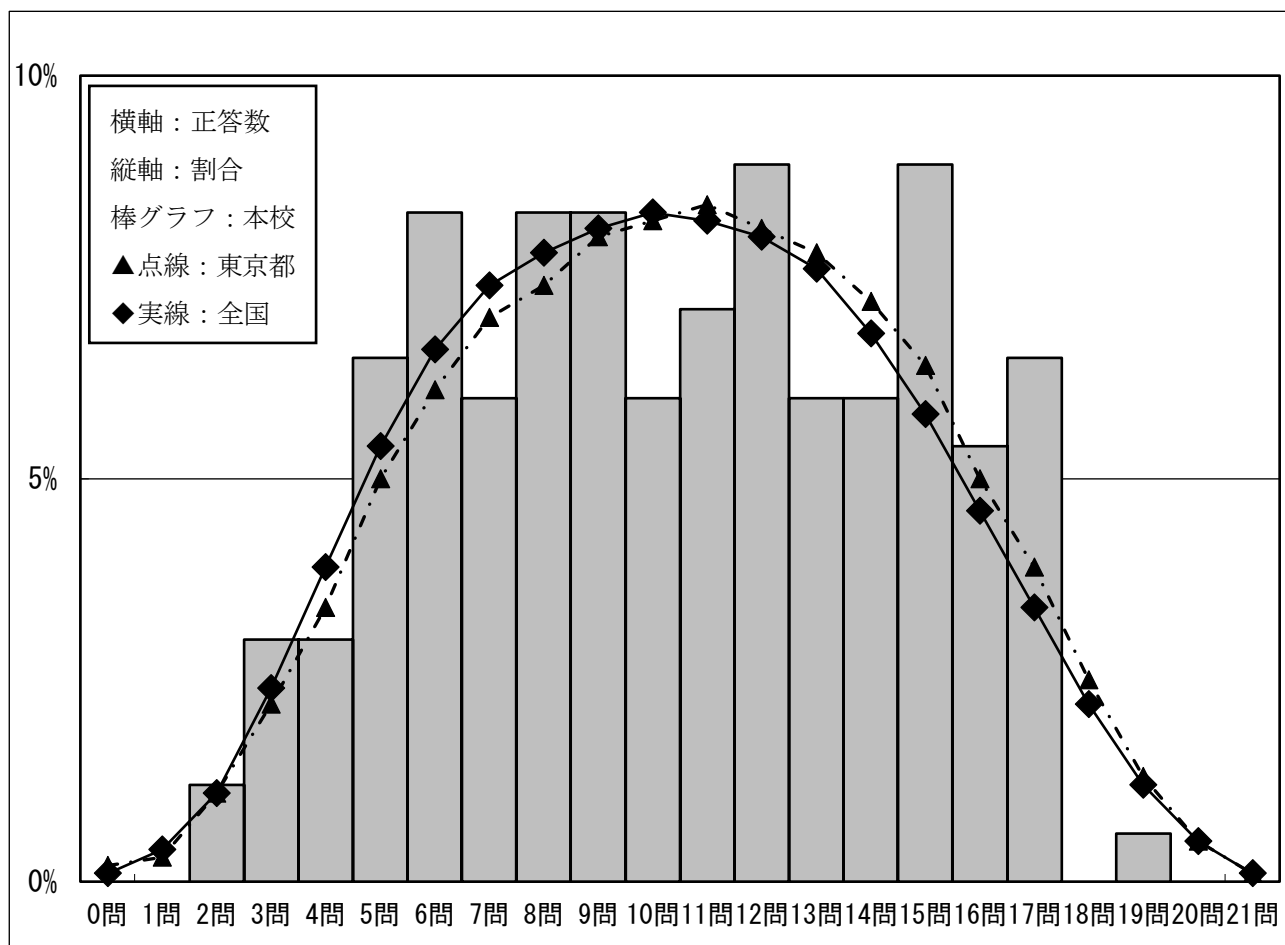


令和4年度 全国学力調査（中3対象）の結果より

理科



学習指導要領の4領域（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」）の平均正答率において、「エネルギー」「粒子」「地球」の領域で全国平均を上回っています。

「エネルギー」の領域では、「日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する問題」、「水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する問題」、「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するかという課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題」、「粒子」の領域では、「水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題」、「吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する問題」、「地球」の領域では、「観察した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する問題」、「サンゴの化石の観察についての問題」、「露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する問題」において、正答率が高くなっています。

一方で、「生命」の領域では、「実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する問題」の正答率が低くなっています。問題形式で分析すると、「選択式」、「短答式」は全国平均を上回っていますが、「記述式」は全国平均を下回っていることから「記述式」の問題が課題となっていることが分かります。実験結果を基に考察する力と自分の考えを記述する力を育成していきます。また、記述する力を高めるために、継続的な基礎基本の定着も図っていきます。

